

日本人女性の国際結婚とライフコース ——アジア人男性との国際結婚の事例から——

中央大学 開内文乃

1 目的

この報告の目的は、アジア圏（＝香港、タイ、シンガポール、トルコ）で現地人男性と国際結婚をした日本人女性の事例から、女性の結婚する条件を検討するものである。

現在、日本では急速な未婚化によって、女性の学校卒業後から結婚までのライフコースが多様化してきている。1980年と2010年国勢調査の未婚率を比較すると、24～29歳が24%から60.3%で36.3%の上昇、30～24歳が9.1%から34.5%で25.4%と上昇している。この30年で女性は必ずしも結婚するとも「結婚適齢期」にするとも限らなくなってきた。その結果、女性は結婚する場合でも学校卒業後から結婚までのライフコースに「定番」が存在しなくなってきた。しかし未婚化に関していうと、日本国内の婚姻件数は減少しているが、国外における外国人男性と日本人女性という組合せの国際結婚は過去20年で2～3倍に増加している（2013年の日本国内婚姻件数は推計66万3千組）。よって、アジア圏で国際結婚をした女性の事例を検討し、学校卒業後から結婚までのライフコースを抽出し、女性の結婚する条件がどのような要因によっておきているかを分析する。

2 方法

調査は2010年4月から2013年1月で計13回にわたって実施した。調査対象者は機縁法で募った77人のアジア人男性と国際結婚をしている日本人女性で、半構造化面接法を用いて、それぞれに1回、2時間から3時間かけてインタビューをした。主な質問項目は、生年月日、学歴、職歴、結婚にいたる経緯、現在の家族構成・職歴・育児の状況・家族の使用言語、今後の家族のあり方についてである。

3 結果

72人（再婚の5人を除いた）分析の結果、「結婚適齢期」があることが判明した。結婚した年齢を4グループに分類すると、①20～24歳6人、②25～29歳37人、③30～34歳24人、④35～39歳5人で、約51%が25～29歳に結婚していた。そしてライフコースは多様化していることが判明した。学校卒業後から結婚までのライフコースを6グループに分類した。①日本正規雇用スタート40人、②日本非正規雇用スタート14人、③海外非正規雇用スタート7人、④海外語学留学及びワーキングホリデースタート6人、⑤無職スタート1人、⑥結婚スタート4人で、約55%が正規雇用からライフコースをスタートさせていた。しかし日本正規雇用スタートのグループで結婚まで同じ会社に働きつづけた人は5人で約7%である。①と⑥を除くと87.5%は学校卒業後から結婚までに学校卒業後のスタートの生活を変えていた。

4 結論

以上から、国際結婚をした女性は学校卒業後から結婚までのライフコースは多様化であったが、結婚する年齢に一定の傾向がみられた。つまり女性の結婚するための条件は、どのようなライフコースを歩むか以上に年齢が現在でも関係しているということになる。

[文献]

開内文乃, 2011, 「グローバル・ファミリーの出現——国際結婚の新しい形」『比較家族史研究』26: 43-64

[付記]

本発表は平成23～25年度科学研究費基盤(C) (課題番23530687) による研究成果の一部である。